



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)

平成28年度 まち・ひと・しごと創生

# 高知イノベーションシステム

## 報告書



高知大学  
Kochi University

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択された「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」も2年目を迎え、取り組みの成果も見え始めました。

本事業は、高知県内の高等教育機関(高知大学、高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校)が協働して、学生の県内就職希望者の増加や企業の雇用創出と採用意欲の向上を図り、卒業生の県内定着を目指す事業です。

地方創生推進士育成科目を学び、地域に就職を希望する学生に、審査を経て付与する「地方創生推進士」の称号を目指す学生も増え、「地域を“知る”、“もっと知る”」、「地域と“会う”」、「地域を“体験する”」、「地域と“協働する”」地方創生推進士育成プログラムを受講しています。

また、企業の雇用創出の取り組みである起業支援事業や観光人材育成事業では、来年度からの本格的な取り組みの準備が整い、また、食品産業人材育成事業では、国家戦略プロフェッショナル検定である「食の6次産業化プロデューサー」のLEVEL1~2の研修機関認定及び海外販路開拓支援を実施しました。

一方、就職状況は全国的な売り手市場が続いており、県内就職率の目標達成は厳しい状況となっています。この状況で、地域や県内企業に目を向けてもらうためには、学生により多く、より深く、地域と関わってもらう必要があります。そのため、県内の高等教育機関、高知県及び高知県内の産業団体等が連携し、今まで以上に、「地域を“知る”」「会う”」「体験する”」取り組みを質的にも量的にも増やしていくこととしています。

地方創生において、学生の県内定着に向けた取り組みは、高等教育機関の重要な役割であると認識しています。参加大学等の高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校とともに、本事業を進めてまいりますので、皆様の温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

高知大学 COC+推進コーディネーター  
川澤 慶洋



## 目次

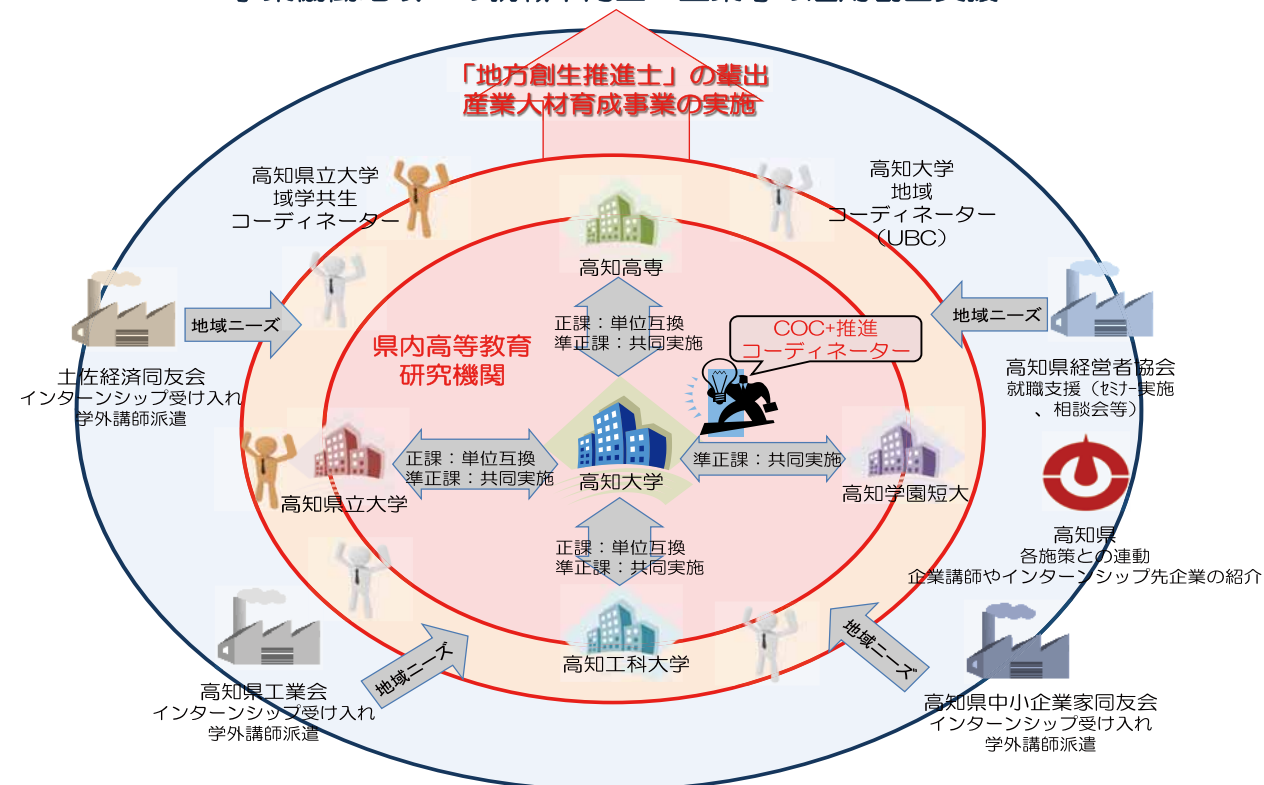
はじめに	
まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステムの概要	4
<b>事業実施体制</b>	
1 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部	6
2 教育プログラム開発委員会	7
3 外部評価	8
4 組織体制	9
<b>事業活動報告</b>	
1 えんむすび隊	10
2 社長インターンシップ	11
3 UBCインターンシップ	12
4 コラボ考房プロジェクト	13
5 「地方創生推進士」誕生	14
<b>雇用創出</b>	
1 学生の県内定着または雇用創生にかかる研究の推進	15
2 食品産業人材育成事業	16
3 若手社員の自律化支援事業	18
4 観光人材の育成による雇用創出	20
5 起業支援事業	21
<b>参加大学活動状況</b>	
1 高知県立大学	22
2 高知工科大学	23
3 高知工業高等専門学校	25
「全国ネットワーク化事業 平成28年度COC/COC+全国シンポジウム」の開催	26
平成28年度COC+推進コーディネーター会議の開催	27

事業協働地域への就職率向上・企業等の雇用創出支援

# まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステムの概要

中小零細企業が大多数を占める高知県では、学生は県内企業の事業内容や独自技術に対する知識が無く、教育機会も少ない。また、産業基盤が脆弱で有効求人倍率が低く、学生の就職先は県外が中心である。この動きに歯止めをかけるべく、学生が地域を“知り”、地域と“会い”、仕事を“体験し”、“協働する”一連のプログラムを創出し、地域に対する深い理解と愛情を持った学生「地方創生推進士」を育成する。さらに、企業の人材育成と産学官連携を促進するプログラムを構築することで雇用創出力と採用意欲を高めて、県全体の産業振興にも貢献する。両プログラムを連動させることで、学生に優れた社会教育機会を提供するとともに、「地方創生推進士」の県内企業との適切なマッチングを図る。

本事業を県内全ての大学等が結集して実行することで、「しごと」を創り、「ひと」を育て、「まち」の持続的発展を担保する、高知型のソーシャルイノベーションが創出される。



卒業後には地域に定着し、地域の中核人材として活躍

(カリキュラムマップの例)

分類	代表的科目例	準正課例
第4phase	プロジェクトマネジメント演習 事業企画プロジェクト実習	社長インターンシップ UBCインターンシップ
第3phase	地域理解実習 地域協働企画立案実習	土佐FBC部分講義 えんむすび隊
第2phase	地域組織論 地域資源管理論	
第1phase	課題探究実践セミナー 高知の中小企業を知る 地域協働論	



## 1 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部

大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部の事業運営として、平成28年度は、4回の本部会議を開催し、県内高等教育機関と地域産業界との連携など事業運営について協議を行いました。

### ● 第1回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議

【開催日時】平成28年4月25日(月) 13:30~14:35

【主 議 題】 ●大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部要項の改正について

- 地方創生士に関する要項の制定について
- 平成28年度事業計画について
- 平成27年度事業実績報告について



### ● 第2回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議(メール会議)

【開催日時】平成28年7月29日(金) ~平成28年8月5日(金)

【主 議 題】 ●大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部要項の改正について

- 地方創生士に関する要項の制定について

### ● 第3回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議

【開催日時】平成28年10月13日(木) 10:30~12:00

【主 議 題】 ●地方創生推進士教育プログラム修了要件について

- まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステムの愛称について

### ● 第4回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議

【開催予定日時】平成29年3月28日(火) 9:30~11:30

【主 議 題】 ●平成28年度地方創生推進士の認証について

- 平成28年度事業実績について
- 平成29年度事業計画について
- 大学以外の事業協働機関による事業への満足度調査について
- 平成28年度外部評価委員会について



### 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議委員名簿

平成28年10月13日現在

機 関 名	役 職 等	氏 名
高知大学	理事(総務・国際・地域担当)	櫻井 克年
高知大学	地域連携推進センター長	受田 浩之
高知県立大学	地域教育研究センター長	清原 泰治
高知工科大学	地域連携副機構長	浜田 正彦
高知工業高等専門学校	地域連携センター長	岸本 誠一
高知学園短期大学	教務部長	吉村 斉
高知県	産業振興推進部長	松尾 晋次
高知県	商工労働部長	中澤 一真
土佐経済同友会	副代表幹事	佐竹 新市
高知県中小企業家同友会	代表幹事	成岡 英司
高知県工業会	常務理事・事務局長	西内 豊
高知県経営者協会	事務局長	筒井 敬士

## 2 教育プログラム開発委員会

平成28年度は、委員会を4回開催し、地方創生推進士に関する諸規則の整備等を行ったほか、地方創生推進士育成科目の充実・整備に向けて取り組みました。

### ● 第1回 教育プログラム開発委員会(メール会議)

【開催日時】平成28年4月20日(水) ~4月22日(金)

【主 議 題】 ●地方創生推進士に関する要項について

### ● 第2回 教育プログラム開発委員会

【開催日時】平成28年9月16日(金) 10:30~11:40

【主 議 題】 ●地方創生推進士教育プログラム修了要件について

- 平成27年度県内就職率等集計結果について



### ● 第3回 教育プログラム開発委員会(メール会議)

【開催日時】平成29年2月2日(木) ~平成29年2月16日(木)

【主 議 題】 ●地方創生推進士認証申請事務手続について

### ● 第4回 教育プログラム開発委員会

【開催日時】平成29年3月9日(木) 15:30~16:20

【主 議 題】 ●平成28年度地方創生推進士の資格審査について

- 平成29年度開講地方創生推進士育成科目について
- 平成28年度補助事業実施状況報告について



### 教育プログラム開発委員会委員名簿

平成28年4月1日現在

機 関 名	役 職 等	氏 名	備 考
高知大学	理事(教育・附属学校園担当)	藤田 尚文	第3条第1号委員
高知県立大学	教務部長	五百蔵 高浩	第3条第2号委員
高知工科大学	教育本部長	蝶野 成臣	第3条第3号委員
高知工業高等専門学校	教務主事(副校長)	秦泉寺 俊弘	第3条第4号委員
高知学園短期大学	教務部長	吉村 斉	第3条第5号委員
株式会社ヒワサキ	取締役相談役	日和崎 二郎	第3条第6号委員

### 3 外部評価

事業のPDCAサイクルを効果的に実施するために設置された、外部評価委員会が平成29年1月16日(月)に開催されました。外部評価委員会は県内外の有識者4名で構成され、今回は平成27年度事業実績についての評価が行われました。評価方法は自己点検評価書に基づき行われるとともに、評価項目についての意見等もいただく形で進められ、以下の講評をいただきました。

#### ● 眞鍋委員長からの全体講評

「地方創生推進士の育成は、事業の柱。オリジナリティーがありシンボリックなもので、全国の事例になり得る取り組み。全体の進捗としては、順調にスタートしたと言える。幅広い事業を実施していく仕組みは構築できたと考える」などの評価をいただくとともに、今後の課題として「地方創生推進士育成科目の設定など、参加大学の取り組みのさらなる充実や地方創生推進士の企業向けアピール。企業側に周知していくための取り組みが一層求められる」などのアドバイスもいただいた。



#### まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム外部評価委員会名簿

平成28年4月1日現在

機関名	役職	氏名
北九州市立大学	地域創生学群長	眞鍋 和博
株式会社クオリティ・オブ・ライフ	代表取締役	原 正紀
高知労働局	職業安定部長	渡辺 剛史
高知商工会議所	専務理事	杉本 雅敏

### 4 組織体制

平成27年11月に本学地域連携推進センター内に地方創生推進部門を設置するとともに事務部門として地域連携課内に地方創生推進室を設置して業務運営を開始しました。

平成28年4月からは、COC+推進コーディネーター及び同補佐の2名を迎え、組織体制が整ったことから、事業目標達成に向けた事業活動が進められました。

また、県内高等教育機関担当者が高知県担当者からなる担当者連絡会を発足させ、月1回開催して情報の共有等を行いました。

(平成28年度組織体制)

#### 事業推進責任者

役職	氏名
理事(総務・国際・地域担当)	櫻井 克年

#### 地域連携推進センター

役職	氏名
地域連携推進センター センター長	受田 浩之

#### 地方創生推進部門

役職	氏名
COC+推進コーディネーター (地方創生推進部門長)	川澤 慶洋
同補佐 (地方創生推進部門専任教員)	川竹 大輔
兼務教員(域学連携推進部門長)	吉用 武史
兼務教員(UBC)	赤池 慎吾
兼務教員(UBC)	大崎 優
教務教員(UBC)	岡村 健志
兼務教員(UBC)	梶 英樹
地域連携推進センター 教務補佐員	高田 順子
// 事務補佐員	山川 里香

#### 地方創生推進室

役職	氏名
地方創生推進室長 (地域連携課長)	芝 弘行
地方創生推進室長補佐	片岡 清茂
地方創生推進係主任	片岡 俊弘
// 主任	白米 英里
// 教務補佐員	大槻 聖子
// 事務補佐員	石元 久美



## 1 えんむすび隊

### ● えんむすび隊の目的

えんむすび隊は、「地域で学ぶ、地域を学ぶ1日だけのstudyツアー」というキャッチフレーズを掲げ、高知大学の学生を対象にこれまでに計104回実施されたスタディツアーです。このツアーは高知県内のさまざまな地域に足を運び、その地域の魅力や課題を学ぶという内容になっています。なお、各ツアーには必ず教員が同行し、地域の方と一緒に農作業等のさまざまな作業を行う内容となっており、見学だけにとどまらない学びの機会となるようプログラムを設計しています。なお、「えんむすび隊」は「地方創生推進士育成科目」（準正課／第3phase該当科目）に位置付けられています。

▷ツアー告知ポスター（一例）



### ● 平成28年度実施状況

平成28年度は全部で18回実施し、計155名の学生が参加しました。

実施日	ツアー先	内容
4月24日	本山町	汗見川地区（山菜収穫・加工）
5月7日	土佐町	茶通づくり
5月14日	安田町	中山地区（自然薯植え付け作業）
6月5日	本山町	田んぼアート 田植え手伝い
6月12日	中土佐町	大野見 ひまわりの植え付け
7月24日	宿毛市	海の観光プラン
8月6日	四万十町	海洋堂かっぱ館 イベント手伝い
10月9日	大豊町	半農半X 農業インターンシップ①
10月16日	須崎市	六次産業化（葉にんにくの植え付け作業）
10月23日	本山町	田んぼアート イベント手伝い・稲刈り体験
11月26日	大豊町	半農半X 農業インターンシップ②
12月4日	安田町	中山地区（自然薯の収穫）
12月11日	安田町	やまいもまつり
12月18日	四万十町	地域づくりイベント
1月15日	土佐市	SNSを用いた情報発信
2月16日	佐川町	ひなまつりを学ぶ
2月20日	高知市・南国市	まちなかの森林（もり）を体感
2月23日	高知市	まちと百貨店の歴史を学ぶ

### ● 本年度の概観

参加した学生からは「授業では学べない地域の方々の思いを感じ取ることができました」、「過疎化・高齢化の現実にも向き合うことができたので意味のある活動になったと思います」といった感想がよせられており、このツアーが学生の地域の実態理解へ貢献していると考えられます。また、ツアーへの参加が地域と関わるきっかけとなり、その後に学生団体を立ち上げ、長期的に自主的に地域への関与を深めている例も見受けられました。なお、「えんむすび隊」はメディアで取り上げられることも多く、今年度は11回の取材を受けました。



## 2 社長インターンシップ

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」（準正課）では、第4フェーズのなかで「社長インターンシップ」を開講しました。

「社長インターンシップ」は、県内で活躍する中小企業経営者や団体トップに密着同行し、企業経営者らの考え方やリーダーシップなどを直接学ぶインターンシッププログラムです。

地域企業の実情に直接触れ、課題の認識と解決のための方策を考えることで、地域に定着して貢献することの意義を自分事として捉えることを目的としています。

以下の企業団体にご参画いただきました。

有限会社マップ高知、株式会社サニーフーズ、四国管財株式会社、株式会社スマッシュ、有限会社積善会、株式会社土佐龍馬の里、株式会社戸田商行、株式会社ヒワサキ、平和観光旅行社、丸和建設株式会社、ミタニ建設工業株式会社、株式会社南の風社、宮地電機株式会社、山和木材株式会社、依光瓦工業株式会社、四国財務局高知財務事務所

企業の参画募集にあたっては、事業協働機関の経済団体の皆様にご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

今年度は3つの事業所に対して、8名の学生が受講をしました。

社長インターンシップの受講学生は、企業団体のトップと朝礼に合わせて合流し、それぞれの事業概要を知るとともに、社長がボランティアとして防災団体を率いている姿や関係機関からヒアリングをしている様子に接し、

「学生としてなかなか経験できない名刺交換をすることで、社会人を強く意識した」

「いろんな現実にも悩みながらも、いいものを目指して頑張っている人たちに出会ったのは本当に貴重な経験でした」

といった感想を述べていました。





### 3 UBCインターンシップ

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」(準正課)の「UBCインターンシップ」では、4名のUBC(高知大学地域コーディネーター:University Block Coordinator)の指導のもと、6名の学生がプログラムを受講しました。

「UBCインターンシップ」は、地域の課題解決に向けて大学・地域・自治体等の関係機関を“コーディネート”するUBCの活動を体験するインターンシッププログラムです。地域の実情に触れ、課題を認識し解決のための方策を考えることを目指しており、受講する学生は、現在UBCが向き合っている地域課題に基づいて設定されたテーマにUBCとともに取り組み、UBCの視点から実体験を通じて学びます。

#### 【プログラム例】

##### ● 広域観光振興の課題に挑む

UBCが担当する地域での観光に関する会議や打ち合わせに同行同席し、学生との関わり方、DMOの取り組み、観光人材育成などをテーマにした議論を聞いて学びました。



##### ● クラウドファンディング・プロジェクト立ち上げの一人になる

クラウドファンディングの概要を学んだうえで、嶺北地域でのプロジェクト打ち合わせに同席し、ツリーハウスづくりにも参加しました。



##### ● 森林鉄道の「日本遺産」申請の舞台裏を体験する

日本遺産申請に向けたストーリー案の協議に同席し、森林鉄道があった中芸地域を訪ね、一つの案が決定するプロセスを現場で体験しました。

##### ● 母子手帳アプリの認知度を高める

須崎市の母子手帳アプリ開発を通じて、どのような工夫をすればサイト来客数が増えるのかを学び、社会で活かせる知識を身につけるべく、担当UBCの指導を受けました。

受講した学生は、UBCの活動を通じて地域を体験するとともに、大学と地域をつなぐコーディネーターの役割の大きさを実感していました。

今後も、地域に定着して貢献することの意義を自分事として捉えることのできる人材の育成を目指して、テーマを追加・更新しながらプログラムを充実させていきます。



### 4 コラボ考房プロジェクト

#### ● コラボ考房プロジェクトの目的

コラボ考房プロジェクトは、自律した人材の育成を目指し構築された教育プログラムで、年に2度学生団体を募集し、採択された団体に対しては1年間にわたってプロジェクトの企画立案、実施、組織作りの支援を行います。



△ブラッシュアップ会の様子

支援の内容としては、月1回程度のミーティングの開催と進捗状況の確認、3か月に一度行う学生報告会「活動ブラッシュアップ会」の開催、校費による活動支援、物品の貸し出し等を行っています。なお、本プログラムは、地方創生推進士育成科目(準正課/第5フェーズ該当科目)に位置付けられています。



△学生団体募集のポスター

#### ● 学生団体の主な活動内容

28年度活動した団体は、8団体、43名の学生です。地域の魅力を発信する広報誌を作成したり、ゴミ拾いのイベントを開催したり、学内に中古教科書の受け取り受け渡しのシステム構築を目指すなど、活動内容は多岐に及んでいます。

プロジェクト名	チーム名	人数
スポーツ化現象計画	スポーツ化組合	13
自然薯でつなぐ人の輪	中山を元気にし隊	4
みんな気イヤー高知の田舎へ!	まけまけいっばい	3
教科書中古販売及び地域貢献事業	Book for Happiness	5
ほたるを通して地域とつながる	ほたる飛ばし隊!!	8
次世代につなげよう地域の食	安田(あんた)の食応援隊	4
地域と大学を繋ぐ	リボン	5
商店街活性化(仮)		1

#### ● 実施スケジュール

- 6月 ○学生団体の募集  
○活動ブラッシュアップ会の開催  
○広報テント活動の実施(朝倉及び物部キャンパス)
- 9月 活動ブラッシュアップ会の開催
- 11月 黒潮祭における出店「出張コラボ~in黒潮祭」
- 12月 学生団体の募集/活動ブラッシュアップ会の開催
- 3月 活動ブラッシュアップ会の開催



△Book for Happinessが開催した教科書回収イベントの様子

#### ● 概況

今年度の新規団体は、3団体と少ないですが、いずれの団体も活発に活動を行っています。特に地域で活動した団体は、何度も地域を訪れ、丁寧な取材を行い、集めた原稿をもとに活動広報冊子を制作しています。その活発な活動は新聞でも取り上げられました。



## 5 「地方創生推進士」誕生

「地方創生推進士」は、高知県内の高等教育機関（高知大学、高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校）の教育課程で、地域の住民と積極的に触れ合い地域の課題解決に取り組む経験などを経て、地域への理解と愛情を深め、高知をはじめとする地域で働き貢献したいという学生に与えられる称号です。

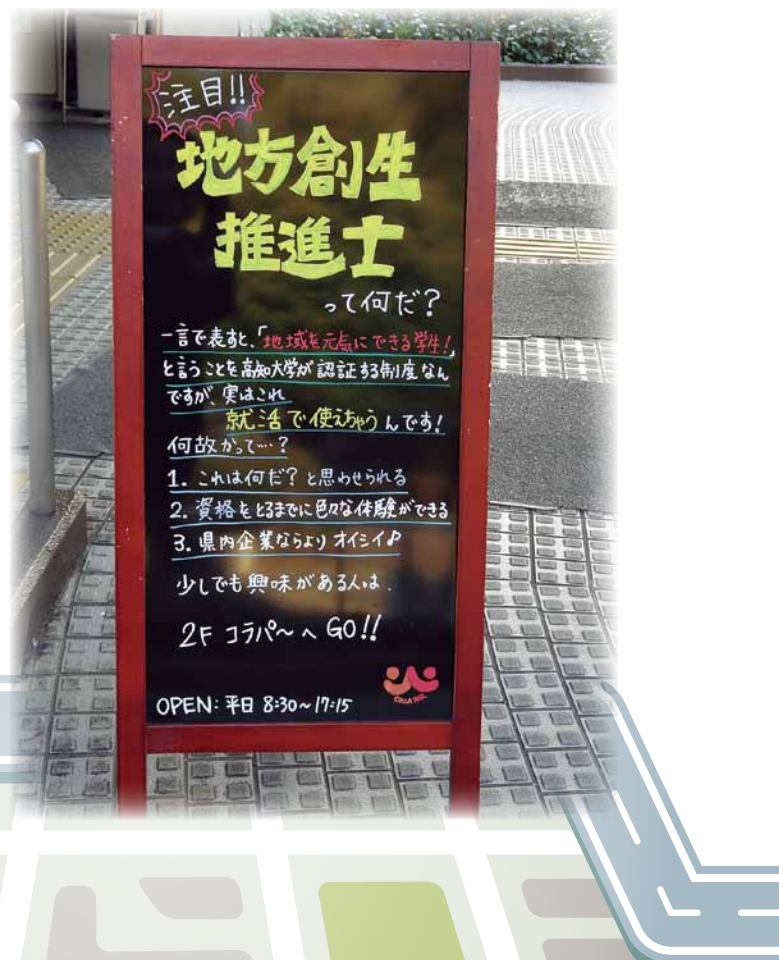
地域を知り、地域と会い、仕事を体験し協働する一連の教育プログラムを、第1フェーズから第5フェーズまで設け、地域への理解と愛情を深め、地域に貢献したいとする学生を「地方創生推進士」として認証します。地域の未来をつくる革新力となる人材、すなわちローカル・イノベーターとして期待されています。

平成28年度は地方創生推進士の正課と準正課での育成科目を整備するとともに、学生に対してはさまざまな機会を捉えて周知に努め、地方創生推進士の就職受け皿になる企業に対してもアンケート調査や社長インターンシップの協力依頼を通じて広報しました。

また、「地方創生推進士プログラム要件」では、平成26年度開講科目から地方創生推進士育成科目修得を可能としたことや、COC+教務管理システムの活用で認証取得に向けた履修指導が行われたこともあって、当初の想定より1年早く平成29年2月には高知大学人文学部3年生の学生2名から認証申請が出て、翌3月には「大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議」で認定されました。

地方創生推進士となった2名の学生は、

- A 高知県での就職に地方創生推進士の資格を大いに活用し、長期的に高知で働くうえで役に立てたい
- B 幅広い視点で地域を理解し、さまざまな立場の人と意見を交わしながら高知県の活性化に取り組みたいと抱負を述べていました。



## 1 学生の県内定着または雇用創出にかかる研究の推進

「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」(以下「本事業」という。)を推進するために、学内教員等を対象に、地域(高知県)の企業等の活性化を促すなどによる雇用の拡大及び県内での起業に結びつく研究または地域への就職率向上に寄与する研究を推進する体制を構築しており、今年度は地域課題(集落活動センターの支援、地域の食・観光等、地域への移住・定住、起業等)と密接に関係する研究課題と研究成果が学生の県内定着または雇用創出につながると見込まれる研究5件の研究活動を行っています。

通番	学系・部門・職名	研究者名	事業の名称
1	人文社会科学系 人文社会科学部門 教授	吉尾 寛(代表) 小幡 尚 岩佐 光広 後藤 拓也 赤池 慎吾	生活史を基調に安田町集落活動センターなかやまを魚梁瀬森林鉄道保存・活用の拠点として整備し、中芸5ヶ町村の観光雇用を創出・拡大するための研究
2	医療学系 看護学部門 教授	大井 美紀(代表) 和田 庸平 林 昌子 吉村 澄佳 赤池 慎吾	地域課題に即した看護ケアをinnovationでできる看護師の育成・輩出を目指した看護師育成プログラムの開発
3	総合科学系 地域協働教育学部門 講師	須藤 順(代表) 中澤 純治 石筒 覚 藤岡 正樹	地域中小企業への就業率向上に向けたプログラム開発と仕組みづくり
4	総合科学系 生命環境医学部門 准教授	松川 和嗣(代表) 坂本 修士 樋口 琢磨	土佐あかうしの増頭・高付加価値化を可能にする繁殖雌牛の高度利用に関する研究
5	総合科学系 生命環境医学部門 教授	永田 信治	醸造技術の向上は、農作物の生産拡充と高付加価値化を促進し、人材育成による高知県及び四国の活力向上を実現する!

## 2 食品産業人材育成事業

高知大学が地域の食品産業における中核人材育成事業として実施している「土佐フードビジネスクリエーター人材創出(土佐FBC)」において、雇用創出のための更なる拡充策として、国家認証制度である「食の6次産業化プロデューサー(通称:食Pro)」及び企業の海外販路開拓支援として「土佐FBCグローバルプログラム」に取り組んでいます。

食Proにおいては、食Proコースを開設するとともに、他のコースにおいても取得が可能となるプログラムを構築し実施しました。

平成28年度は、32名が受講を希望し、そのうち28名が取得申請を予定しています。

「土佐FBCグローバルプログラム」は、土佐FBC修了生所属企業及び学生を対象にした、食品における海外ビジネスを外国で実際に体験する研修プログラムです。海外ビジネスに豊富な経験を持つ専門家の指導により商談や展示会参加の留意点等必要な知識を修得する事前研修(3回)と、海外で開催される展示会に出展する海外研修に、(有)菱田ベーカリーの菱田仁専務と高知大学の学生2名が参加しました。

なお、本プログラムは、地方創生推進土育成科目(4th preparation phase 準正課)にも位置づけられています。

海外研修では、8月11~13日に開催された香港最大級の国際総合食品見本市である「27th HKTDC Food Expo 2016(香港Food Expo 2016)」へ出展しました。約21,000人のバイヤーが来場する中、参加した学生らは自身の語学力と事前研修で得た知識を活かし、来場者への試食提供とともに商品説明およびアンケート調査を積極的に行い、菱田専務は同行スタッフのサポートのもとで具体的な商談を進めました。滞在中は展示会の他、JETRO 香港への訪問や小売店視察を通して現地調査も行いました。

本プログラムが海外に対応できるグローバルな人材の育成の一助となり、また、JETRO 高知の専門家や土佐FBC教員とともに展示会に出展したことで、海外販路開拓についてのノウハウが得られ、今後の海外事業展開の端緒となることを期待します。



### ● 第1回事前研修会

【日時】平成28年6月29日(水) 13:30~17:15

【場所】高知大学国際連携推進センター2階国際交流スペース

【主な内容】

「土佐FBCグローバルプログラム」説明 ジェトロ高知 所長 山口和紀氏

講義「香港の日本食品市場と販路開拓」(株)シラカシフーズコンサルティング 代表取締役 白樫一彦氏

講義「いかに香港に食品を売り込むか」(株)こうち暮らしの楽校 代表取締役 松田高政氏

会社・商品説明 (有)菱田ベーカリー 専務 菱田仁氏

海外研修課題設定及びディスカッション

### ● 第2回事前研修会

【日時】平成28年7月8日(金) 13:30~17:10

【場所】高知大学国際連携推進センター2階国際交流スペース

【主な内容】

講義「香港向け食品輸出の実務基礎」ジェトロ高知 所長 山口和紀氏

講義「香港市場に向けた商品開発とブラッシュアップ」(株)こうち暮らしの楽校 代表取締役 松田高政氏

企業・学生から海外研修課題の中間報告、ディスカッション

### ● 事前発表会及び第3回事前研修会

【日時】平成28年7月27日(水) 13:30~17:30

【場所】高知大学国際連携推進センター2階会議室

【主な内容】

「企業研修者及び学生による事前研修成果と課題の発表」(有)菱田ベーカリー 専務 菱田仁氏、学生

「海外研修の目標、仮説、検証方法(アンケート票)、抱負説明」

「ロールプレイによる研修」「海外研修プログラム説明」ジェトロ高知 所長 山口和紀氏

講義「香港に向けたマーケティング」(株)こうち暮らしの楽校 松田高政氏

### ● 海外研修

【日時】平成28年8月8日(月)~14日(日)

【場所】香港

【主な内容】

「27th HKTDC Food Expo 2016(香港Food Expo 2016)」へ出展

JETRO 香港訪問

現地小売店視察

### ● 研修報告会

【日時】平成28年9月30日(金) 13:30~16:00

【場所】高知大学地域連携センターセミナー室

【主な内容】海外研修の報告

講師からの講評



### 3 若手社員の自律化支援事業

#### SBI(Society Based Internship 人間関係形成インターンシップ)

##### ● 事業紹介

SBIは、3人一組で3週間企業に入り、職場体験をするインターンシップです。単なる業務理解だけでなく、協働体験から、自己理解を深めることを目指しています。また、企業に実習へ入る前には、目標設定やチームビルディングやマナー研修会といった支援も行います。

また、SBIは学生への支援だけでなく、企業にとっては人材育成のきっかけとして活用されることを目指しています。実習先の企業では一人のSV(スーパーバイザー)が学生を担当し、実習プログラムの立案や学生の実習支援を行う中で、企業人としてのスキルを磨きます。

さらに、SBIでは、このプログラムのさらなる向上を目指し本学教員と、SBI関係企業の経営者からなる「SBIシステム研究会」を年4回開催し、活発な意見交換を行っています。なおSBIは「地方創生推進土育成科目」(準正課)第5フェーズに、位置付けられています。

##### ● 平成28年度の実施状況

【第12期SBI高知/参加学生：15名、受入企業：5社】

- 4月
  - ・2016年度第1回SBIシステム検討幹事会※本学教員及び外部コーディネーターと実施
- 6月
  - ・2016年度第2回SBIシステム検討幹事会
  - ・マインドアップセミナー
- 7月
  - ・スキルアップセミナー
  - ・チームビルディング&目標設定セミナー①
  - ・第1回高知SBIシステム研究会
  - ・学生と受入企業との顔合わせ
  - ・目標設定塾 ※受入企業担当者対象
  - ・チームビルディング&目標設定セミナー②
- 8月
  - ・マナー研修会
  - ・SBインターンシップ実習(第12期高知)
- 9月
  - ・2016年度第3回SBIシステム検討幹事会
  - ・中間モニタリング
  - ・事後モニタリング、目標設定総括セミナー
  - ・振り返り報告会
  - ・目標設定総括塾
- 10月
  - ・第2回高知SBIシステム研究会
  - ・2016年度第4回SBIシステム検討幹事会



【第13期SBI高知/参加学生：6名、受入企業：2社】

- 12月
  - ・2016年度第5回SBIシステム検討幹事会
  - ・マインドアップセミナー
  - ・チームビルディング&目標設定セミナー①
- 1月
  - ・第3回高知SBIシステム研究会
  - ・学生と受入企業との顔合わせ
  - ・目標設定塾
  - ・チームビルディング&目標設定セミナー②
- 2月
  - ・マナー研修会
  - ・SBインターンシップ実習(第12期高知)
  - ・2016年度第6回SBIシステム検討幹事会
  - ・中間モニタリング
- 3月
  - ・事後モニタリング、目標設定総括セミナー
  - ・振り返り報告会
  - ・目標設定総括塾
  - ・第4回高知SBIシステム研究会



##### ● SBIの効果

・研究会で企業経営者から、「(受け入れた)学生が(社内で)発表の様子を見て受入担当者に対する社内の評価が変わった。また担当者自身も自信がついた。このようなことはこの機会が無ければなかったし、そもそも任す機会も無かった。」という意見があり、受入企業にとって学生の受入が、社員教育の一環として機能している様子がうかがえた。

また、学生が3人で実習を始めると、人間関係に摩擦が生じることが多々あるが(これがSBIの狙いでもあるが)、そういった機会は受入担当者にとって、社内の人間関係の調整および管理について実践的に経験する場となっているようだった。

## 4 観光人材の育成による雇用創出

観光は関連する産業分野が広く、経済波及効果が高い分野です。高知県には食のほかに気候・風土、地形・地質、生活、行事、芸能、史跡、都市・田園、文化財などさまざまな観光資源があり、これらの資源を最大限に活用することによって、どの地域でも地方創生につなげていけることができると考えています。そのため、行政や産業界とともに人材育成講座を構築し、マーケティングやマネジメント力、企画力等を備えた観光人材の育成を行うこととしています。

本年度は、29年度の試行実施に向け、必要とされる人材像および教育カリキュラムの検討を行いました。

### 【観光人材育成事業検討会のメンバー】

高知大学、高知県立大学、高知工科大学、高知県観光振興部、高知県観光コンベンション協会、土佐経済同友会観光振興委員会、日本航空高知支店、四国銀行法人サポート部

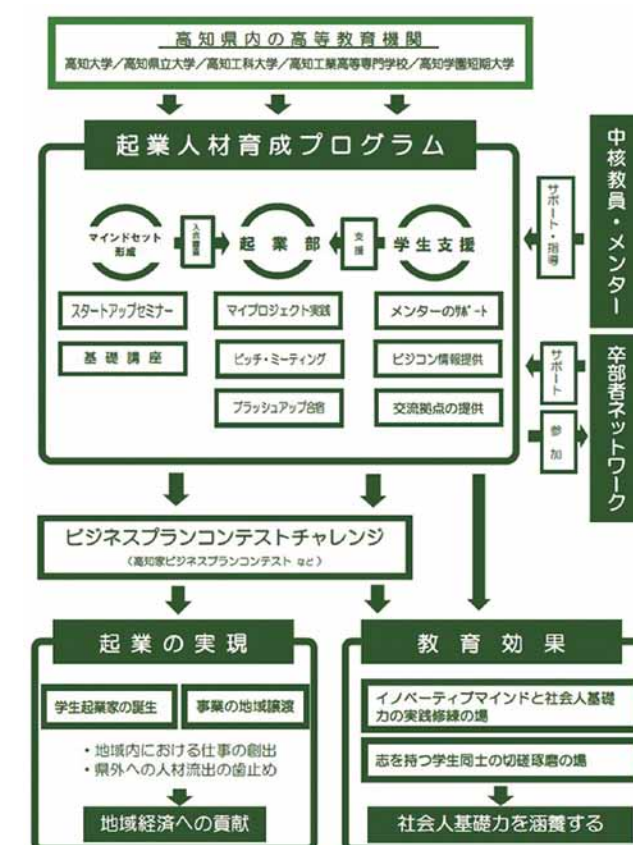
### 【観光人材育成事業検討会の開催実績】

- 第1回(平成28年4月26日) 協議事項
  - (1) 検討会の運営体制について
  - (2) 観光人材育成事業の目指す姿について
- 第2回(平成28年5月31日) 協議事項
  - (1) 報告事項(高知県の観光人材育成の取り組みについて)に基づき討議
- 第3回(平成28年7月1日) 協議事項
  - (1) 報告事項(「北の観光まちづくりリーダー養成セミナー」視察報告)に基づき討議
  - (2) 観光まちづくりについて討議
- 第4回(平成28年7月28日) 協議事項
  - (1) 報告事項(地域経済活性化支援機構(REVIC)のDMCの取り組みと必要人材について)に基づき討議
  - (2) 人材育成のあり方について討議
- 第5回(平成28年9月5日) 協議事項
  - (1) 報告事項(国内観光の流れと観光研究・教育のステージ、観光研究の領域)に基づき討議
  - (2) 人材育成のあり方について討議
- 第6回(平成28年10月5日) 協議事項
  - (1) 報告事項(観光地域づくりの先進地 ツェルマツト視察報告)に基づき討議
- 第7回(平成28年10月18日) 協議事項
  - (1) 中間まとめに向けた議論
- 第8回(平成28年11月11日)
  - 佐川町の町あるき視察・ヒアリング、屋形船仁淀川ヒアリング
- 第9回(平成28年12月2日) 協議事項
  - (1) 中間とりまとめ(案)について
- 第10回(平成29年2月7日) 協議事項
  - (1) 観光人材育成事業における講座設計について

## 5 起業支援事業

本事業においては、学生アイデアによる事業創出が県内で生み出されることを目指し、そのための実践的教育を行うために起業人材育成プログラムを構築する。本プログラムは、起業マインドを高めるためのスタートアップセミナーや基礎講座、志ある学生同士の切磋琢磨の場として起業部、教員や学外メンターによる指導等により構成される。本事業を通じて、学生のイノベティブマインドの向上及び社会人基礎力の涵養を通じて、アントレプレナー及びイントレプレナーを養成する。

平成28年度は起業人材育成プログラムの全体構成を立案し、具体的設計を行った。また、本プログラムの学内周知を開始すると共に、スタートアップセミナーとして起業マインド醸成セミナーを開催した。



- 起業マインド醸成セミナー ～「起業」という選択肢～
  - 日時：平成29年3月9日(木) 18:00～19:00
  - 場所：高知大学総合研究棟1階研修室
  - 講師：高知大学地域協働学部 須藤 順 講師
  - (専門：社会的企業論/社会起業家論、コミュニティデザイン論)





## 1 高知県立大学

### ● 事業紹介

「高知県東部のスゴい会社を泊まりがけで見に行く本気バスツアー」

学生が高知県内での就職を視野に入れながら進路を考え、企業に関心を持つことを企図して、高知県内で事業を展開している企業を訪問し、企業の特性や魅力を学びながら「仕事とはなにか」や「企業に対する理解」を深めるように促すことを本事業の目的としている。

実際に企業に訪問する前に、まずは自身の進路についてのイメージを見つめたり、具体化できる内容の座学を行い、次のステップとして企業訪問を行うことでさらに具体的なイメージへと高めていき、企業訪問後、これからの活動につながる振り返りを行う構成にしている。

### ● 効果(成果)

働くことに対する漠然とした認識から一歩進んで、自分自身の進路にイメージを持つと同時に、そのために残りの大学生活で何を身につければよいかを考察する機会となり、さらに、地域に根ざした活動をしている企業を訪問することで、高知県で働くことの特性や魅力に理解を深め、県内就職に向けた意識の向上においても大きな影響を与えたと考えられる。

また、本事業は高知県立大学と高知県地域支援企画員及び高知大学COC+コーディネーターとの3者により企画・運営しており、このことから高知県及び大学間連携によるCOC+推進体制の基盤が形成された。

### ● 参加学生の感想

業種：道の駅の運営管理

道の駅の一番の魅力は、なんといってもそこで働く方たちの「人柄の良さ」だと思います。まるで、自分の祖母と話しているかのように心が落ち着く場所でした。自分の住む町を愛してやまない地域の方々の思いを一心に背負ったこの道の駅では、他のお店では買えないような価値のあるものが得られるように感じました。今回、訪問した地域のように、地域が一体となって、町の活性化につなげているのを見ることで、自分が地元のために何ができるのかということは今までよりも一層考えられるようになりました。(文化学部1回生、高知県出身)



## 2 高知工科大学

### 【海外インターンシップ】

第4フェーズとして実施している本事業は、海外での就労体験を通じて、外国語でのコミュニケーション能力と異文化適応力を養うとともに、自国の文化や歴史に対する理解の重要性を認識したグローバル人材を育成することを目的としている。また、地元企業の海外展開を目の当たりにすることによって、都市部への就職でなくともグローバルに活躍する機会があるということを知る場にもなっている。

本年度は、7名の学生が高知県企業の海外支店や海外工場でインターンシップを体験した。



△ネクストリーマー インドオフィス

国	地域	受入企業	派遣学生	
			所属	学年
インド	プネ	(株)ネクストリーマー	情報学群	3
	ラジャスタン	(株)太陽	システム工学群 マネジメント学部	3 3
ベトナム	ホーチミン	(株)土佐電子	システム工学群 情報学群	3 3
	ビンジュン	池川木材工業(有)	システム工学群 マネジメント学部	3 3

実習後に開催した学内成果報告会では、参加学生から、「日本式経営を現地の風習や国民性に適応させる必要性和その大変さを実感した。」「残された大学生活で取り組むべき課題を発見することができた。」「将来は、高知を拠点に世界に羽ばたいていきたい。」などの感想が紹介された。

### 【平成28年度のマネチャレについて】

今年度の地域共生概論2(マネジメントチャレンジ:以下「マネチャレ」と略す)では、2箇所をフィールドとして活動を行った。学生の受講者は5名と少数であったが、開講5年目にして初めて2名の社会人の方に参加して頂いた。このことによって、学生はより深い学びを経験するとともに、企画も一層充実したものとなった。

今年度のマネチャレを通して、企画成功の鍵として

1. 成功の必要条件: ビジョン(理想)を掲げ、他者を巻き込んで行くリーダーシップ
2. ビジョン(理想)正しい理解・構築のために必要なこと: 関係性の構築
3. 企画の位置付けの明確化: ビジョン(理想)を達成するための一つのプロジェクト
4. 覚悟を持つことの必要性とそのため必要なこと: 不安軽減とキャパシティ向上・発揮
5. 社会人メンバーの強み: 学生の成長を見守る温かいまなざし

が重要であることを実感した。

ここでは、上記5項目の中で4, 5について、「土佐山田町日曜日活性化-移住者出店お試しプロジェクト」を例に記述する。

本プロジェクトのメンバーは高知工科大生2名(横山友則君(通称 トモ)、矢野沙織さん(通称 ヤノちゃん))



### 3 高知工業高等専門学校

と社会人1名(長吉真吾氏(通称 シンゴさん):香美市街づくり支援員)の3名である。このプロジェクトのマネージャー(プロマネ)となったのは、マネチャレ受講前までは土佐山田日曜市に全く興味を持っていなかった高知市在住のヤノちゃんである。最初は、プロマネを引き受けることに関して、大きな不安があったようである。しかし、「自分は変わりたい!」との強い思いから、「清水の舞台から飛び降りる気持ち」でプロマネを引き受けた。一旦、引き受けた後は、決して弱音を吐かずに、マネチャレ企画の実現に向けて、地道な努力を真摯に重ねていった。やるべきことが見えてくるようになって、不安が緩和されていったとのことであった。また、ヤノちゃんは、高校時代、まんが甲子園準優勝校のメンバーでもあった。そのスキルを発揮して、本企画のポスターも制作した。この制作を通して、自分自身が潜在的に持っていたキャパシティの大きさに気付くこととなった。これらの不安軽減・キャパシティ発揮によって、プロマネとしての覚悟は揺るぎのないものとなっていった。

今回の企画で特筆すべきもう一つの点は、社会人メンバーのシンゴさんの存在である。彼は、途中から、黒子となって、学生メンバー、特にプロマネを支援することに心血を注いだ。シンゴさんの学生を思う温かい気持ちによって、学生と社会人メンバーが上手く融合したプロジェクトとなった。

当日はポスターとSNSの効用によって、多くの来店者が訪れ、活気ある市となった。

今回の企画が、地域社会を元気にする契機となることを心から願う次第である。

平成28年度の活動として、本校のキャリア支援室及び地域連携センターが中心となり、(一社)高知県工業会と連携し、以下の3つの活動を実施しました。

#### ① 県内企業見学会

10月から12月にかけて、本校の1年生から3年生までの全学生(約500名)が県内企業等21団体を訪問しました。これにより、学生が低学年次から地域と出会う機会が拡がり、県内企業従事者や本校のOB・OGと交流を図ることで県内企業に対する知識や理解を深めることができました。



#### ② 県内企業交流会

11月と2月に「県内企業とのmini交流会」と題し、11月実施分は1~4年生の希望者35名、2月実施分は3、4年生61名が参加しました。交流会には県内企業が7社ずつ、計14社に参加いただきました。予想以上の学生が集まり会場が狭く感じました。この交流会により、後日、開催した企業説明会に自発的に低学年生が参加するなど、地域企業の情報を自ら収集しようとする動きにつながりました。



#### ③ 県内企業説明会

3月に県内企業説明会及び企業合同説明会を開催しました。県内企業は22社に参加いただきました。就職活動が始まった専攻科1年生、本科4年生を中心に多数の学生が参加しました。また、夏季休業中にインターンシップを希望している3年生の姿も多く見られ、県内で“ものづくり”を支えている企業に対する知識や理解を深めることができました。





# 「全国ネットワーク化事業 平成28年度COC/COC+全国シンポジウム」の開催

# 平成28年度COC+推進コーディネーター会議の開催



高知大学では、文部科学省補助金「地(知)の拠点整備事業(COC)」及び「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を受けて、COC/COC+事業の全国ネットワーク化を目指し全国シンポジウムを開催しており、今年度は、3月6日～7日の2日間、「地方創生と大学」をテーマに、地方創生に対して大学等が役割を果たすために必要な方策や人材育成、課題等について議論しました。

1日目には、脇口宏学長の主催者挨拶、尾崎正直高知県知事の開催地挨拶(代読)、文部科学省松尾泰樹大臣官房審議官(高等教育局担当)の挨拶に続き、特別講演として前地方創生担当大臣の石破茂氏から全国的な地方創生の流れや国の動きについて述べられました。また、産業界の立場から、株式会社小松製作所相談役の坂根正弘氏より、デフレ脱却と地方創生に関する基調講演をいただきました。基調討論では、「先進技術と地方創生」をテーマに、大学の科学・技術を地域とうまくマッチングさせ、地域の課題解決、ひいては雇用の創出、地方創生へ結びつけていくにはどうしたらよいかご議論いただきました。その後COC/COC+実施機関のうち26機関によるポスターセッションが行われました。

2日目には、富山県立大学、宮崎大学、岐阜大学、高知大学からCOC事業の成果について事例報告が行われたほか、初めての試みとして、COC/COC+実施機関の課題の具体的な内容や対応方法について、実務者同士が自由に話し合うランチョンミーティングを開きました。

全国で地方創生に取り組む大学等が集結し、各地の取り組みの情報共有と課題解決に向けた意見交換が行われ、大学等の地域貢献活動の全国的な底上げが図られました。

3月6日～7日に開催された「全国ネットワーク化事業 平成28年度COC/COC+全国シンポジウム」に合わせ、COC+推進コーディネーター会議を開催しました。

1. 開催日時 平成29年3月7日(火) 14:00～16:00
2. 開催場所 高知商工会館「光の間」 高知県高知市本町1丁目6-24
3. 参加者 COC+事業選定機関36校(所属大学39校) 53名
4. 開催の背景

文部科学省によると、COC+推進コーディネーターの役割は、目標達成のため、大学力(教育・研究・社会貢献)を結集し、事業協働地域の連携強化や取り組みの進捗を管理するものとされ、他の事業協働地域への情報発信(シンポジウムや講演、全国COC+推進コーディネーター会議の開催等)も想定されているところである。

一方で、コーディネーターは、27年度の事業採択以降に任用され、COC+事業の取り組みを始めたばかりであり、多様な課題に直面していると考えられる。

### 5. 今回の会議の位置づけ

全国シンポジウムに多くの関係者が参集することから、この機会を活用し、それぞれが抱える課題や取り組みにあたっての悩みなどを共有し、解決策の模索を行うとともに、今後の取り組みに活用する。

また、今後のコーディネーターのネットワーク構築を目指し、意見交換を行う。

### 6. 会議の概要

#### (1) 事業推進にあたっての諸課題について

- ① COC+事業の認知度
- ② 地域や企業を理解してもらい取り組みから地元企業への就職へ
- ③ 雇用創出に向けた大学の取り組み
- ④ 事業終了後の取り組み(財源など)
- ⑤ 事業を推進していくうえでの連携のあり方などについて、議論を行った。

#### (2) 今後のコーディネーター会議について(開催頻度、開催主体等)

- ・毎年度、高知大学が主体となり、全国コーディネーター会議を開催することとなった。
- ・ブロックごとにブロック会議を開催することとなった。地区割りや幹事大学、開催頻度などは今後、調整することとなった。

文部科学省 「地(知)の拠点整備事業」COC/COC+事業  
高知大学

## 全国ネットワーク化事業 平成28年度COC/COC+全国シンポジウム

### 地方創生と大学

平成25年度以降、COC事業による大学と地域との協働や協働の場が各地域で創出され、現場においては日々新たな課題が生まれており、大学の地域連携コーディネーター等も、日々、対応力の向上が求められている。地域課題への対応において、各種の先進技術は最も期待される新たな手段になると考えられる。先進技術の活用が今後の地方における雇用創出のキープワートとなり得るため、地方創生に対して高等教育機関である大学が果たすべき重要な役割がある。本シンポジウムでは、先進技術の社会実装を促した雇用創出のための課題および求められる人材育成について議論する。

2017年 3月6日(月)～7日(火)

第1日目 3月6日(月) 12:35～18:10 (開場12:00より) ザクラウンパレス新阪急高知「光の間」(高知市本町4丁目2-50)

第2日目 3月7日(火) 9:00～13:35 (開場8:30より) 高知商工会館「光の間」(高知市本町1丁目6-24)

特別講演 「地方から創生する我が国の未来」 石破茂氏(予定)

特別講演 「地方から創生する我が国の未来」 石破茂氏(予定)

基調講演 「日本の課題 -デフレ脱却と地方創生- (コマツは日本の縮図)」 株式会社小松製作所相談役 坂根正弘氏

基調討論 「先進技術と地方創生」 社会技術研究開発センターセンター長 岩瀬公一氏  
高知県産業振興センター(ものづくり産地地活・外資センター) 技術統括 渡部正三氏  
株式会社 Nextremer 代表取締役CEO 向井永浩氏

ポスターセッション  
COC/COC+ランチョンミーティング

申し込み方法 右に掲載の申込フォームに必要事項を入力後、http://www.kuki-cocplus.jp/ 問い合わせ先 高知大学地域連携推進センター 地方創生推進課 TEL:098-844-8293 E-mail:k110@kuki-u.ac.jp

## プログラム 第1部 3月6日

12:35 開会 挨拶 高知大学学長 脇口宏  
12:40 開催地 挨拶  
12:45 文部科学省 挨拶  
13:00 特別講演 「地方から創生する我が国の未来」 石破茂氏(予定)  
基調講演 「日本の課題 -デフレ脱却と地方創生- (コマツは日本の縮図)」 株式会社小松製作所相談役 坂根正弘氏  
13:40 基調討論 「先進技術と地方創生」  
ファシリテーター: 高知大学学長、地域連携推進センター長 岩瀬公一氏  
パネリスト: 社会技術研究開発センターセンター長 岩瀬公一氏  
高知県産業振興センター(ものづくり産地地活・外資センター) 技術統括 渡部正三氏  
株式会社 Nextremer 代表取締役CEO 向井永浩氏  
17:10 ポスターセッション  
18:20 情報交換会(希望者のみ・会場「光の間」)  
※料 5000円

## ザクラウンパレス新阪急高知

## 第2部 3月7日

9:00 開会  
9:05 事例報告 「COC事業の成果について」  
・富山県立大学 地域協働推進センター COC連絡コーディネーター 藤田賢氏  
・宮崎大学 学長 榎本 誠・地域連携推進課 兼 小中地区COC推進委員 藤田久登氏  
・岐阜大学 地域協働センター 幹事助教 佐藤明日香氏  
・高知大学 地域連携推進センター 地域コーディネーター 森田 悠希、大浦 啓、船村 健志、菅原 健  
12:10 COC/COC+ランチョンミーティング(希望者のみ・会場「光の間」ほか)  
※料 5000円  
本日のCOC/COC+事業による大学等との協働、産業界が取り組んでいる、その中で大学が果たすべき役割、COC/COC+ランチョンミーティングでは実務者同士の議論や情報交換について、具体的な内容や対応方法について、実務者同士が自由に話し合うランチョンミーティングを開催する。この中で共有する。  
【テーマ】 「学生の地域実装」「地域における雇用創出」「COC事業の推進に向けた課題」「学生の地域実装(企業・実務)」「地域におけるCOC/COC+事業の進捗報告」  
13:30 開会 挨拶  
高知大学理事(総務・国際・地域担当) 榎井 尚年



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)

**平成28年度まち・ひと・しごと創生  
高知イノベーションシステム報告書**

---

発行日：2017年3月

発行：国立大学法人高知大学 地域連携推進センター  
〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47  
TEL 088-844-8293 FAX 088-844-8556

印刷：株式会社 高知新聞総合印刷



